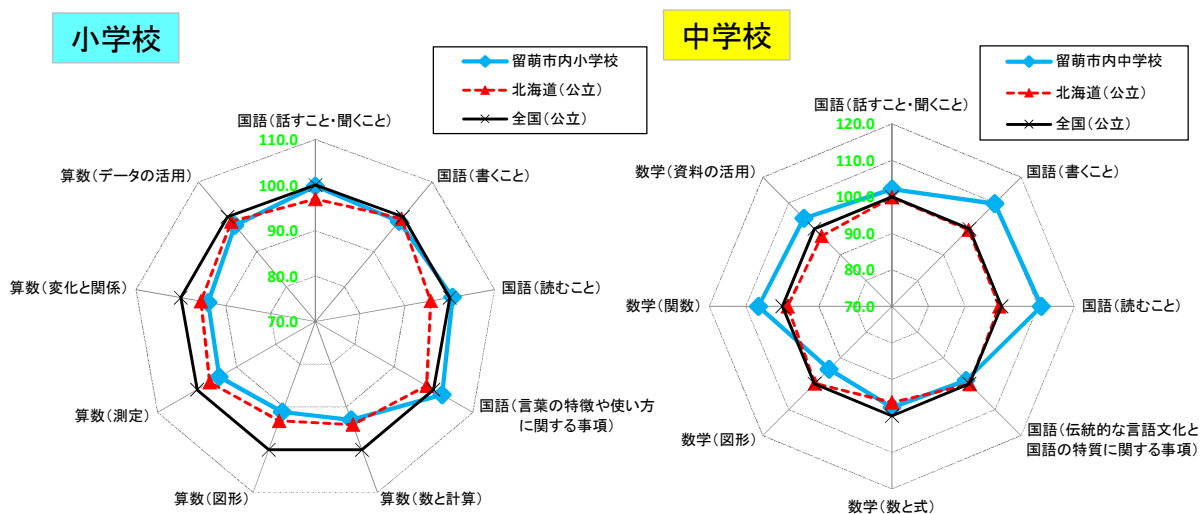


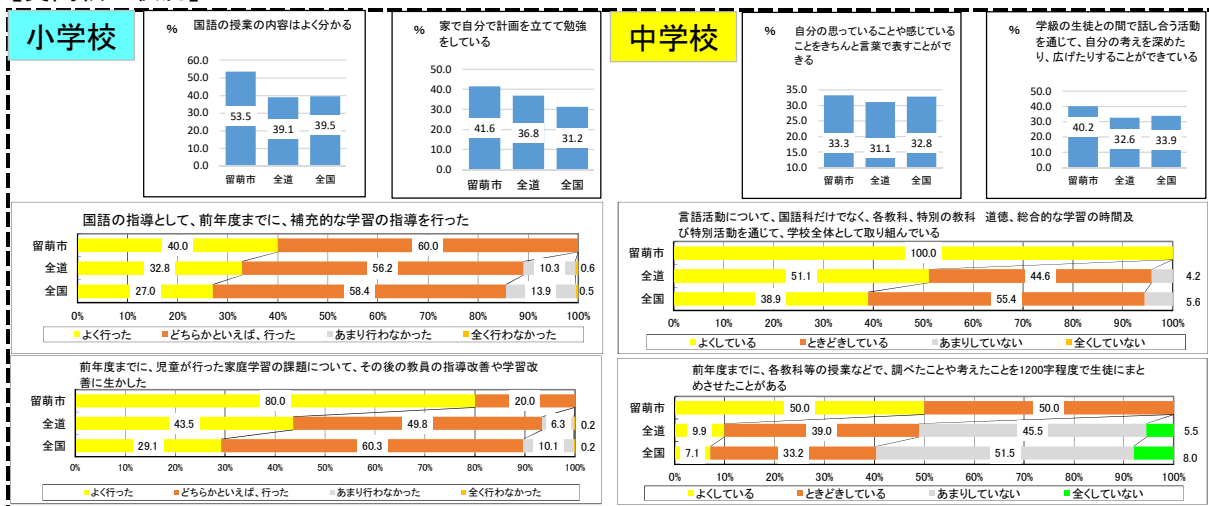
■留萌市内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:101人）（中学校数:2校、生徒数:117人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、補充的な指導を行ったことにより、国語の授業内容がよく分かる」と回答した児童が全国平均を上回り、国語の1領域1事項で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 学校と家庭と連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組を充実させ、学校が児童の家庭学習状況を分析し、指導改善や学習改善を図ったことにより、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。	学校全体で言語活動の充実を図ったことにより、生徒が話し合う活動を通して、自らの考えを深めたり、広めたりしたことから、思考力が高まり、国語の3領域、数学の2領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 生徒が自らの考えや思いを表現する場を各教科等で適切に位置付けたことにより、表現力の育成が図られ、思っていることや感じていることを言葉で表現することができると回答した生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

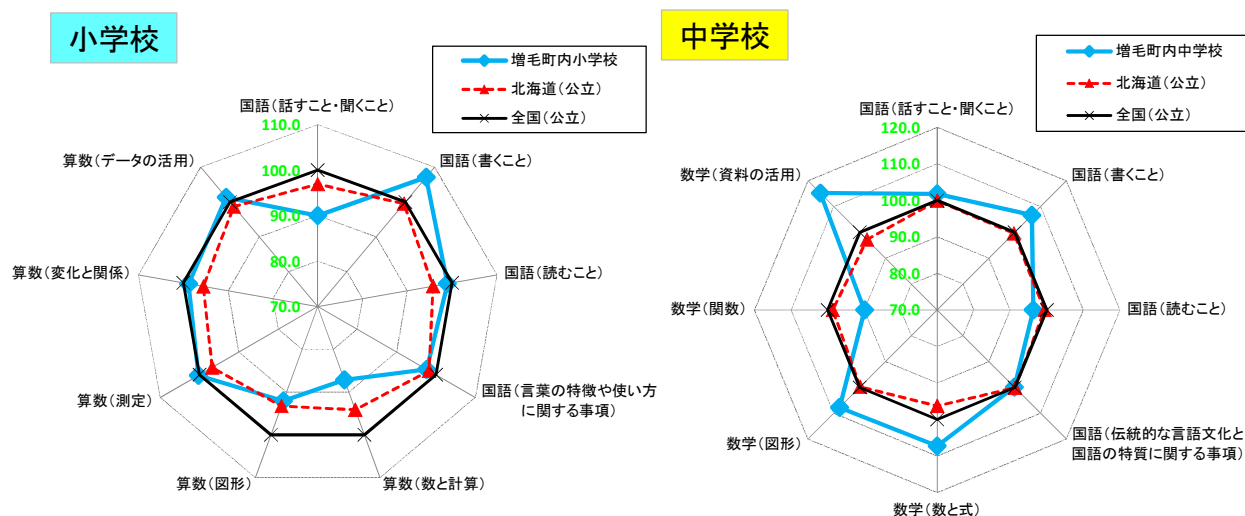
【留萌市の学力向上策】

- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 学校と家庭が連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組の充実
- ◎ 各学校や研究団体における教職員の資質・能力の総合的な向上に向けた取組の支援

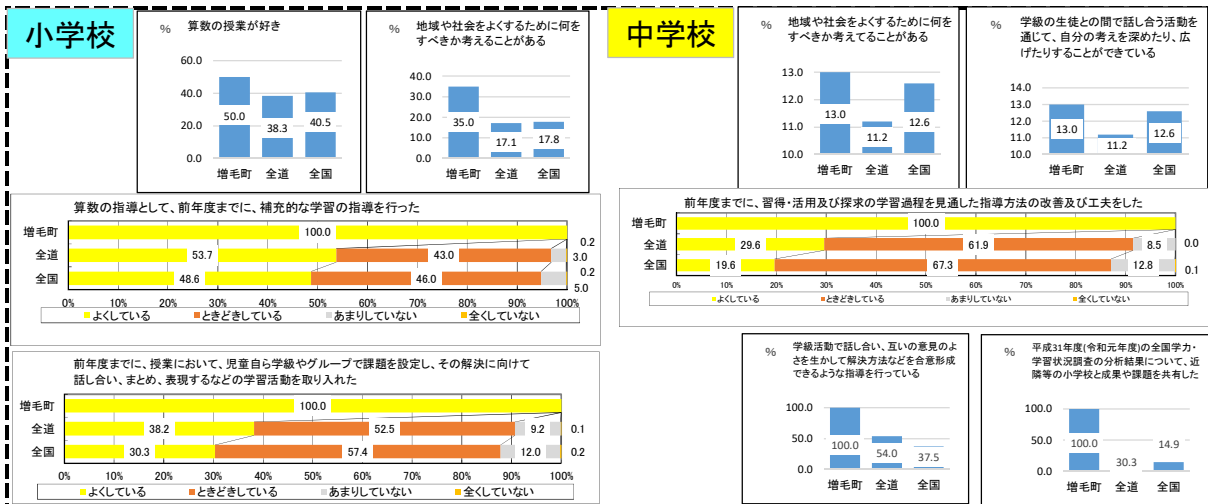
■増毛町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:23人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の授業において、児童の学習状況を踏まえて補充学習の時間を位置付けたことにより、児童の算数に対する興味・関心が高まり、算数で2領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 「小中連携教育推進委員会」による9年間を見通した切れ目のない学校教育の充実を図るとともに、話し合い、まとめ、表現するなどの活動を学校全体で取り組んだことにより、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると回答した児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。	各種学力調査の結果分析に基づく成果と課題を共有し、検証改善サイクルの促進を図るとともに、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の工夫改善を行ったことにより、教育の質の向上が図られ、国語の2領域、数学の3領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できる場を設定したことにより、自分の考えを深めたり、広げたりすることを自覚するとともに、地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがあると回答した生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

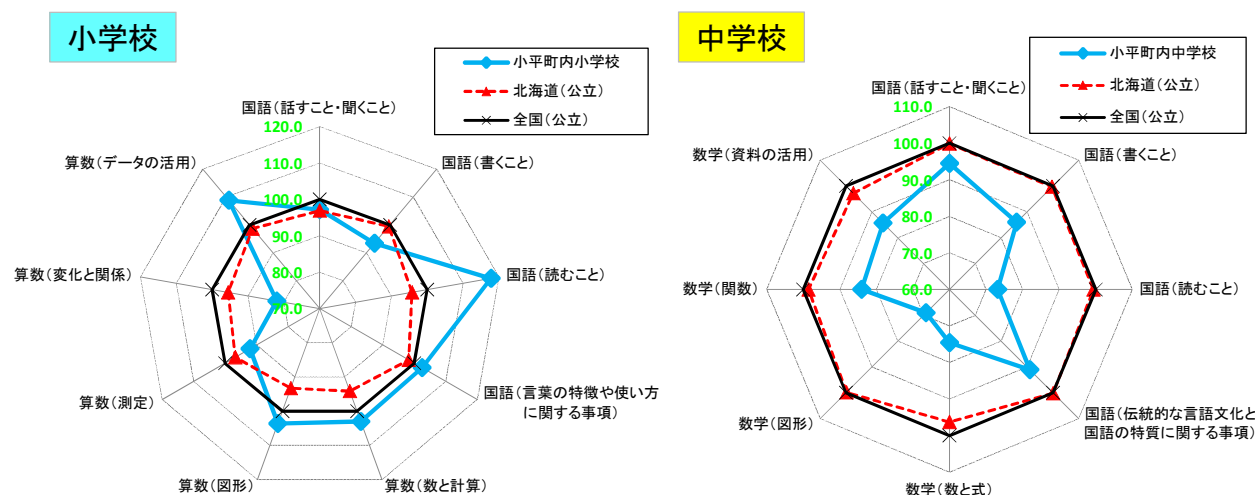
【増毛町の学力向上策】

- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 「小中連携教育推進委員会」による9年間を見通した切れ目のない学校教育の充実
- ◎ 保護者との協力による「家庭学習の手引き」等を活用した家庭における学習習慣の確立

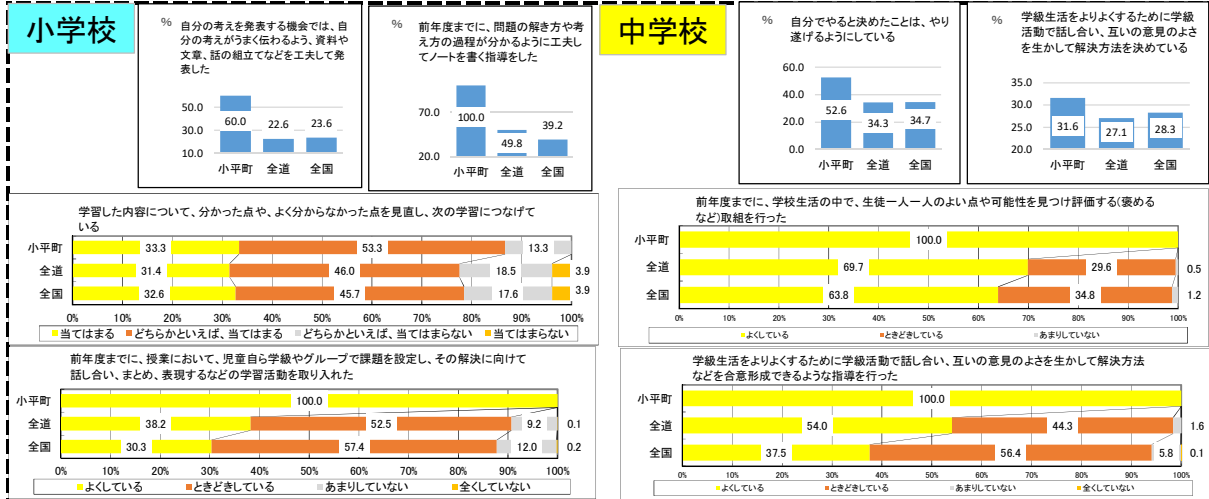
■小平町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:15人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童自らが課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を設定したことにより、児童が工夫して発表を行うなど、児童の思考力、表現力が向上し、国語の1領域1事項、算数の3領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 家庭と連携した学習習慣の確立を図るとともに、児童の思考の過程が見えるノート指導を充実させたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。	各種調査結果の結果分析を踏まえ、生徒の学習状況を適切に把握するとともに、生徒のよい点を積極的に評価したことにより、自分でやると決めたことは最後までやり遂げると回答した生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 学校生活をよりよくするために学級活動での話し合いを充実させ、生徒自身で合意形成できるような指導を行ったことにより、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

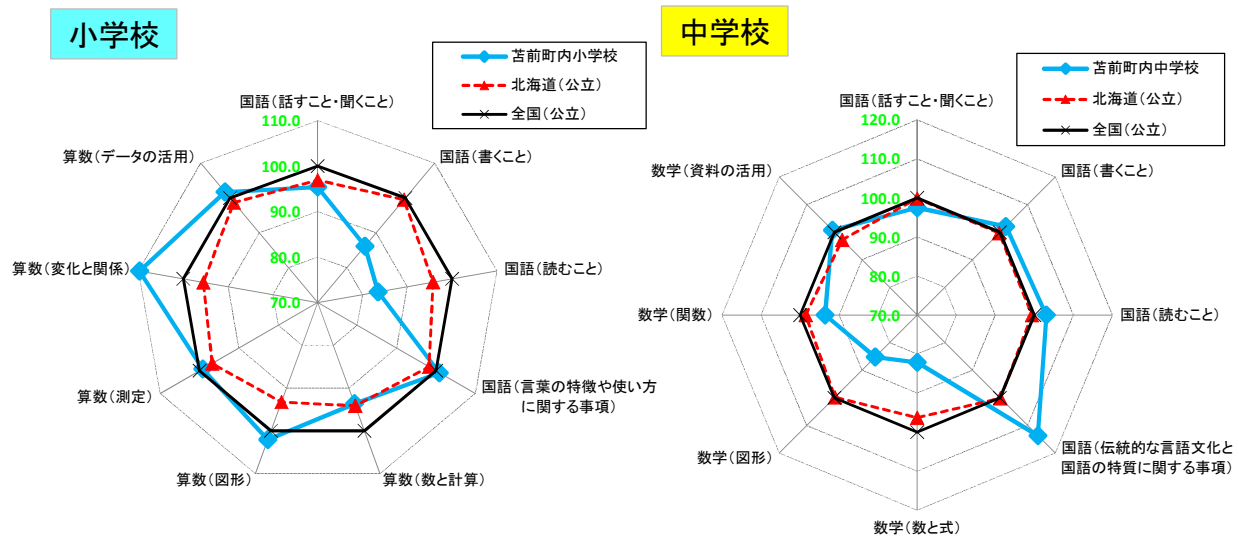
【小平町の学力向上策】

- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業や主体的な学びの実現に向けたICT機器の計画的な整備
- ◎ 家庭との連携による学習習慣の確立に向けた取組の推進

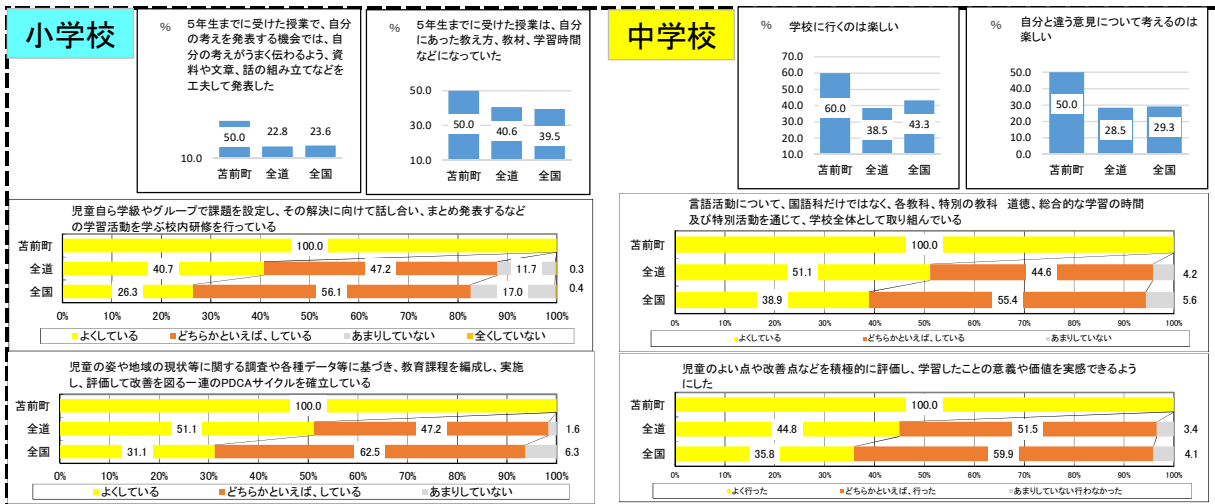
■ 苫前町内の状況及び学力向上策 （小学校数:2校、児童数:22人）（中学校数:2校、生徒数:12人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
児童が自ら課題を設定し、その解決に向けた学習活動を全教職員で学ぶ研修を実施し、児童の思考力・判断力・表現力を高める取組を推進したことにより、児童が自らの学び方を身に付け、発表する機会では、資料等を工夫して発表したと回答した児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 各種データ等を活用し、学力向上策の改善・充実を図るとともに、教育課程の編成及び実施して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、教育の質の向上が図られ、児童に合った教え方が工夫され、国語の1事項、算数の3領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。	各種データ等を活用し、学力向上策の改善・充実を図るとともに、言語活動を教育活動全体で充実させたことにより、生徒が他者と協働的に学び、自分と異なる意見等から思考力を高め、国語の2領域1事項、数学の1領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 個に応じたきめ細かな学習指導の充実を図るとともに、児童のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしたことにより、学校に行くのは楽しいと回答した生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

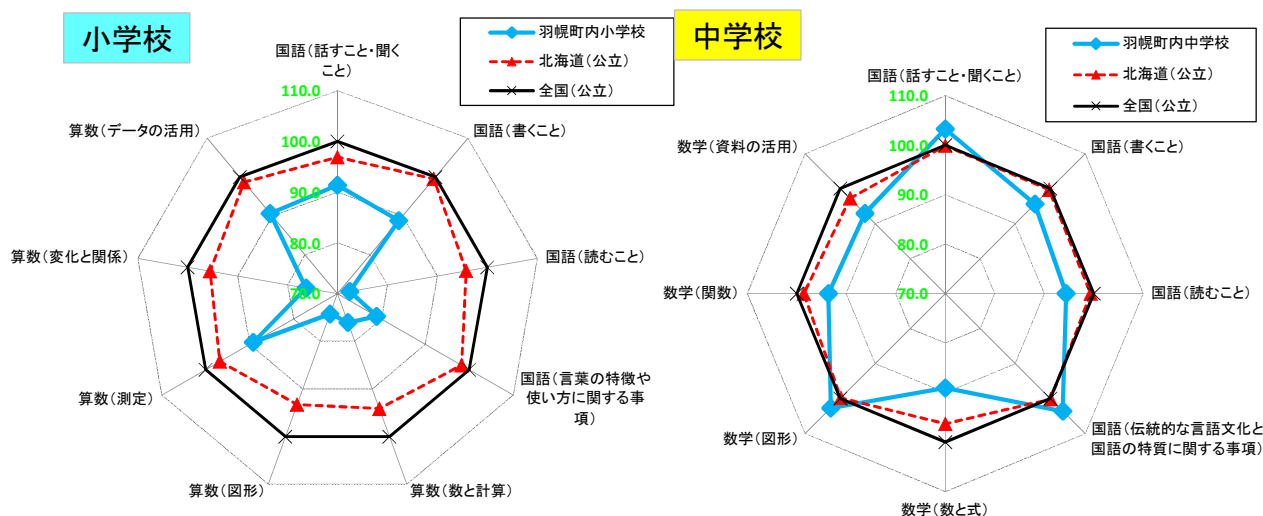
【苫前町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析を基にした学力向上策の改善・充実
- ◎ T・Tによる指導や習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 規則正しい生活習慣の確立と家庭学習の定着を支援する「学びの寺子屋」の実施

■羽幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:36人）

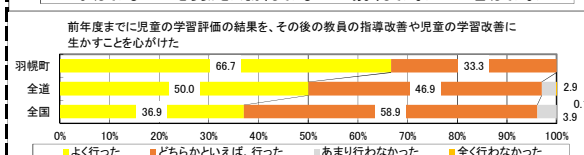
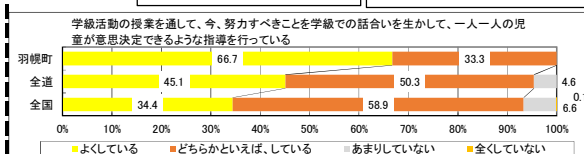
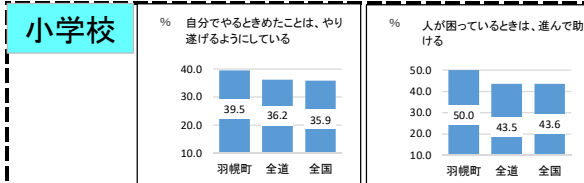
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

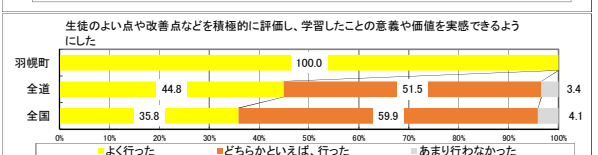
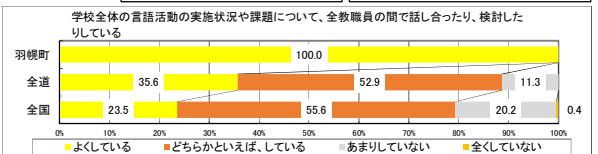
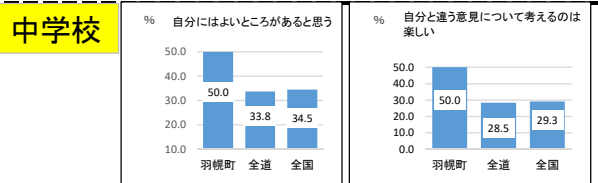


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけたことにより、意欲をもって活動に取り組むなど、自分でやるときめたことは、最後までやり遂げると回答した児童が全国平均を上回る結果につながったと考えられる。

学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行ったことにより、課題解決に対する意識が向上し、人が困っているときには、進んで助けると回答した児童が全国平均を上回る結果につながったと考えられる。

中学校

生徒の良い点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるように指導したことにより、生徒の自己肯定感が高まり、主体的に学習に取り組む態度が醸成され、国語の1領域1事項、数学の1領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

学校全体で言語活動の充実を図る取組状況を検討・改善したことにより、生徒の思考力・判断力・表現力等が向上し、自分と違う意見を考えるのは楽しいと回答する生徒が全国平均を上回る結果につながったと考えられる。

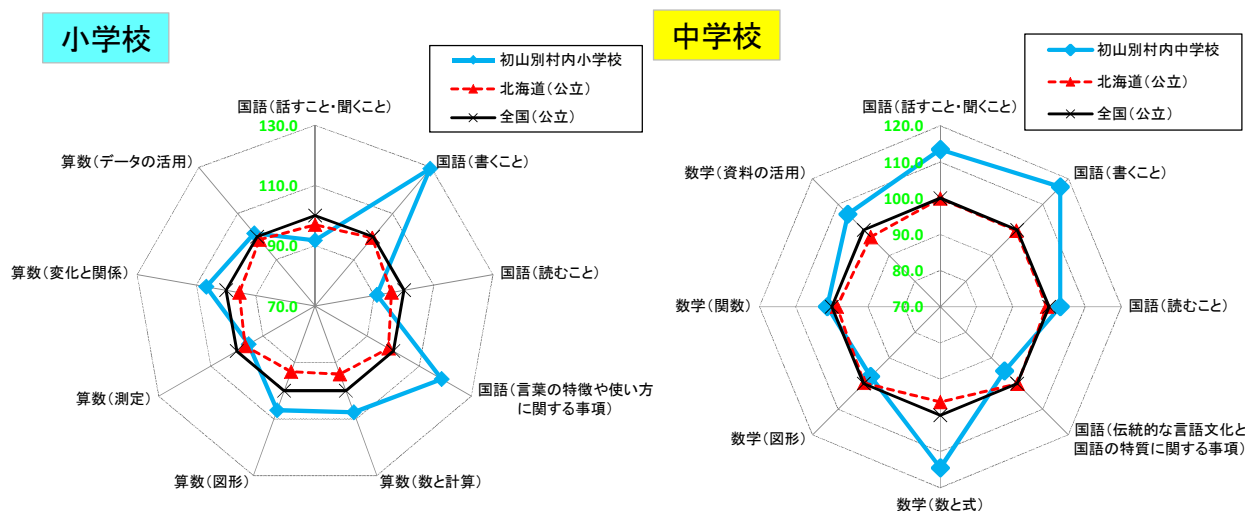
【羽幌町の学力向上策】

- ◎ 授業改善推進チーム員を活用した指導力の向上及びT・T指導など個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 情報通信機器を有効活用した学習指導の推進
- ◎ 教育支援員の配置

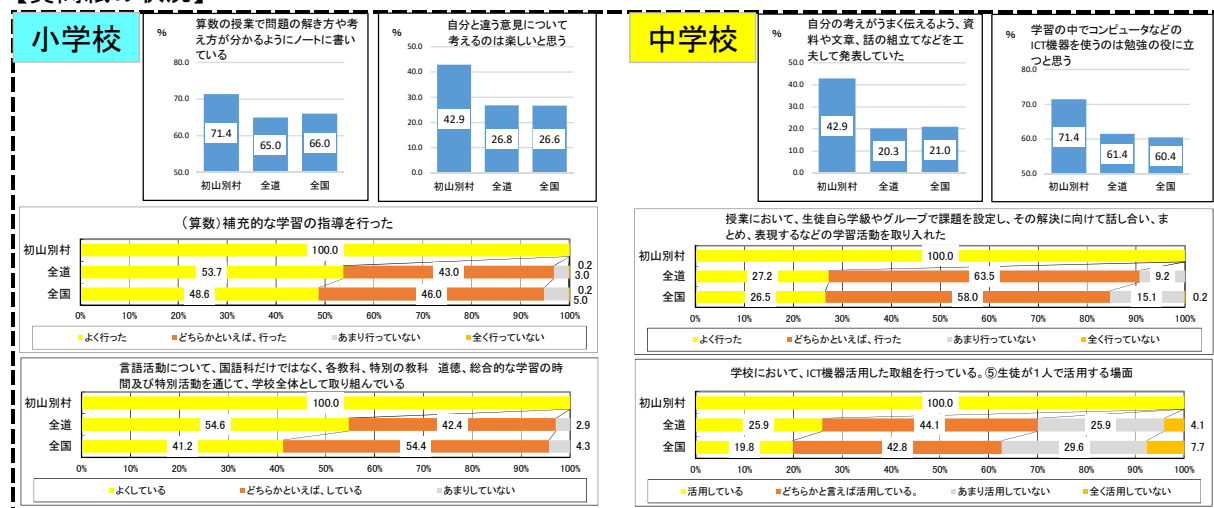
■初山別村内の状況及び学力向上策（小学校数：1校、児童数：7人）（中学校数：1校、生徒数：8人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
算数の授業において、補充的な学習を行ったことにより、授業において、児童が問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書くなど、短答式や記述問題において全国平均正答率を上回り、算数の4領域で、全国の平均正答率を上回る成果につながったと考えられる。 学校全体の言語活動の充実を図ったことにより、自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思う児童の割合が全国平均を上回るとともに、国語の1領域1事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	各授業において、課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと回答する生徒が全国平均を上回るとともに、国語の3領域、数学の3領域で、全国の平均正答率を上回る成果につながったと考えられる。 教育活動全体で生徒がICT機器を効果的に学習に生かす場面を具体的に設定したことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国平均を上回ったと考えられる。

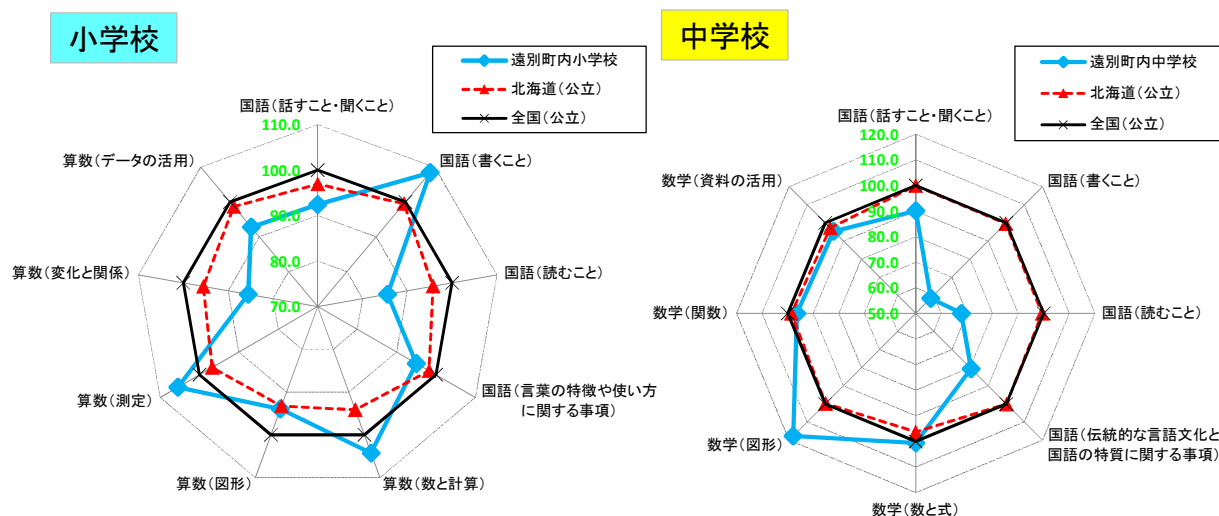
【初山別村の学力向上策】

- ◎ 各種学力調査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立
- ◎ 学校と家庭が連携した望ましい生活習慣の確立に向けた取組の充実
- ◎ 小学校と中学校が連携した1人一台端末の活用促進を図る取組の実施

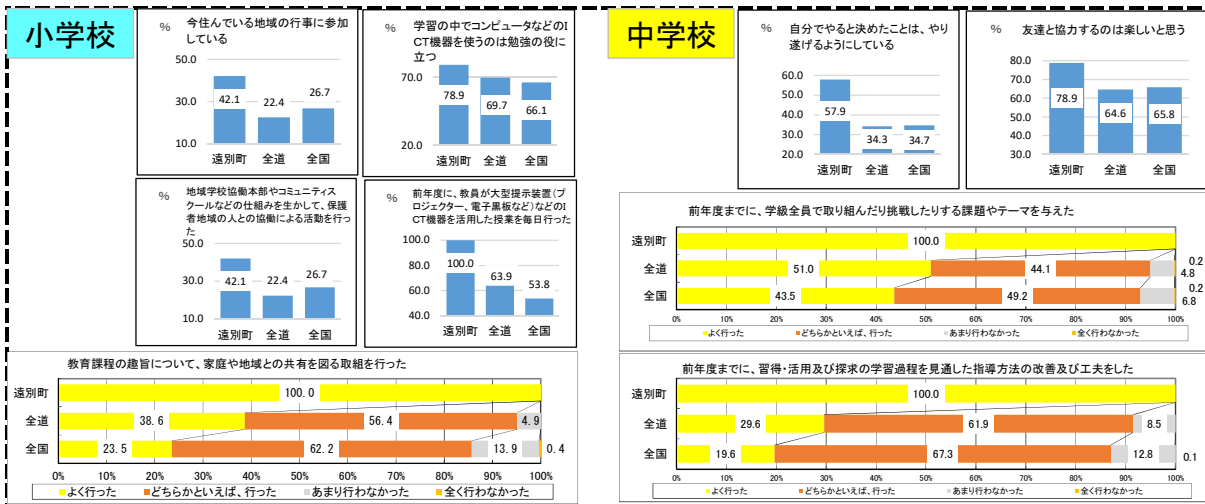
■遠別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:19人）（中学校数:1校、生徒数:19人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
教員が学習支援のためにICT機器を活用した授業を工夫したことにより、児童が、学習の中でICT機器の活用するなど、授業改善が図られ、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 学校が、教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図るとともに、地域学校協働本部やコミュニティ・スクールを活用した取組を推進したことにより、地域での活動に参加している児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。	学校全体で、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、生徒の思考力・判断力・表現力が養われ、数学の1領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。 学級全員で取り組む課題やテーマを与えて取り組んだことにより、決めたことを最後までやり遂げる意識が高まるとともに、友達と協力して取り組む楽しさを実感する生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

【遠別町の学力向上策】

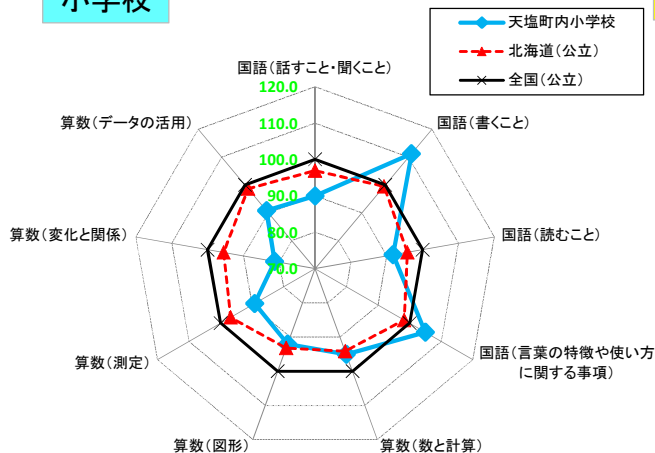
- ◎ 授業改善推進チーム員を活用した指導力の向上及びT・T指導など個に応じたきめ細かな学習指導の充実
- ◎ 情報通信機器を有効活用した学習指導の推進
- ◎ 教育支援員の配置

■天塩町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:21人）

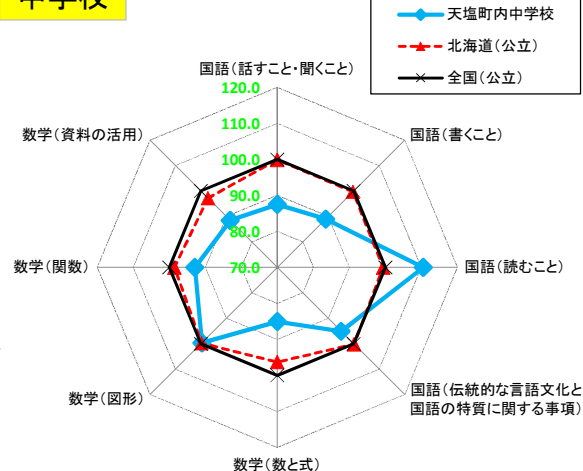
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

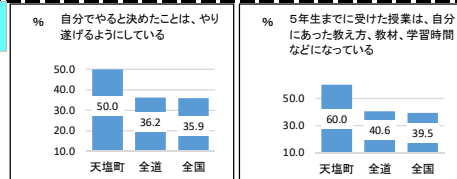


中学校

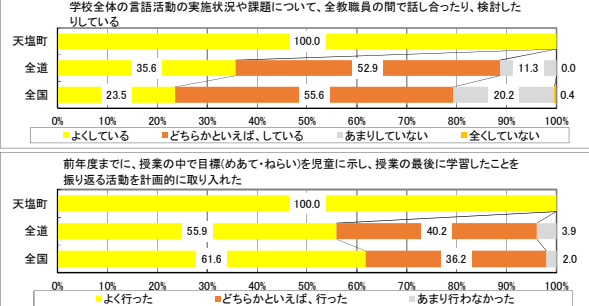
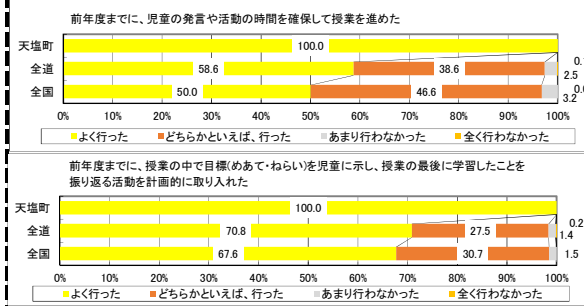
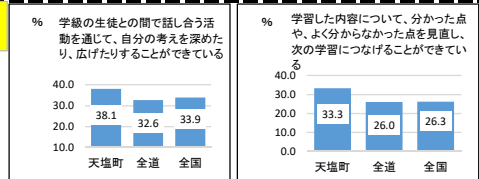


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の発言や活動時間を確保しながら授業を進めたことにより、児童が授業の内容を把握することができ、5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると回答した児童が全国平均を上回る結果につながったと考えられる。

授業の中で目標(めあて・ねらい)を明確にし、児童が自らの学びを振り返る活動を確保したことにより、自らの達成状況を把握し、自分でやると決めたことは最後までやり遂げると回答した児童が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

中学校

学校全体で言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、生徒の言語活用能力の向上が図られ、生徒が自分の考えを広げたり、深めたりしたことにより、国語の1領域で全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

授業の中で目標(めあて・ねらい)を明確にし、生徒が自らの学びを振り返る活動を確保したことにより、授業の内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒が全国平均を上回る成果につながったと考えられる。

【天塩町の学力向上策】

- ◎ 「学力・学習状況調査研究所」による、全国学力・学習状況調査結果の分析に基づいた検証改善サイクルの確立
- ◎ 教職員の資質向上に向けた、小・中・高の教職員による町教育研究協議会の充実及び各種研修会等への参加の支援
- ◎ 各学校における長期休業期間及び放課後の補足的な学習サポートの充実を図る「学習サポート教室」の実施